看護学生と「自己・他者・世界への基本的信頼」をつくるために

2023 年 12 月 26 日、関東甲信越ブロック研修会を開催しました。
１都 9 県 100 校余の学校から 142 名が参加しました。
会場は、近代的大規模校舎「獨協医科大学附属看護専門学校三郷校」。
講師は、自由の森学園高等学校 校長 菅間正道さん。
「今の社会を生きている若者を理解する」が研修会の主題、テーマは「自己・他者・世界への基本的信頼をどうつくるか」～学び会い、育ちあいをすすめる一助として～でした。

菅間さんは、若者は光が射さない「黒い雲」のなかを生きている、その背景に「３Ｋ：競争主義（点数序列主義）・管理主義・空気を読む」があると語る。この状況に向き合うために重要なことは、「基本的信頼・基礎経験」をつくりだすこと、人間の持つ“相互応答性”が大切。人間は、応答を抜きにすると早く死んでしまい人間になれない。若者は「内鍵をかけている」が、レスポンスがなくてもドアをたたき続けることが大切と、力強く語りました。
さらに、あげた声が紡がれる場、声をあげたことで世界が変わる体験が必要であると。

菅間さん編著「向かい風が吹いても」は、10 名へのインタビュー集になっています。エピローグにはこう書かれています。【インタビューの人選は、向かい風が吹いても、ひるむことなくカウンター、あるいはオルタナティブの生き方をされている方々である。嘆き、悲しむことは、いくらでもある。生きることとは、荒い鼻息と深いため息を交互にくりかえしていくことだと思う。しかし、「ため息」を「深呼吸」に変え、顔を上げ、一歩前に進む。（中略）インタビューを終えたあとまとめる作業をしながら、腹の底から「生きるちから」が湧いてくる。そのことが何より楽しい。】

私たち看護専門学校の状況は、まさに「向かい風が吹いている」状況です。しかし、その中で看護師になることを決意し、自校を選択してくれた学生たちを信頼し、ともに希望を紡いでいくことが私たちの役割だと思うのです。
各学校で、各県で、そして日本看護学校協議会の連帯で、この向かい風のなかでも顔を上げて、一歩前に歩んでいこうと、勇気が湧いた研修会でした。

2023 年 12 月 26 日
日本看護学校協議会　関東甲信越ブロック
千葉県役員　山田かおる